

きもの豆知識

帯の織り方について

帯の織り方にはいろいろな種類があります。今回はそんなバラエティー豊かな帯の特徴を見てみましょう。

佐賀錦

経系(たていと)に金銀の箔系を使い、緯系(よこいと)に金銀系、色の多彩な絹系を使って織られたもの。明治大正期に上流階級の間で大流行しました。

唐織

能衣装の織としても知られ、光沢のある緯系を浮かせて模様を織ったもので、一見刺繍にも見える織物。

綴れ織

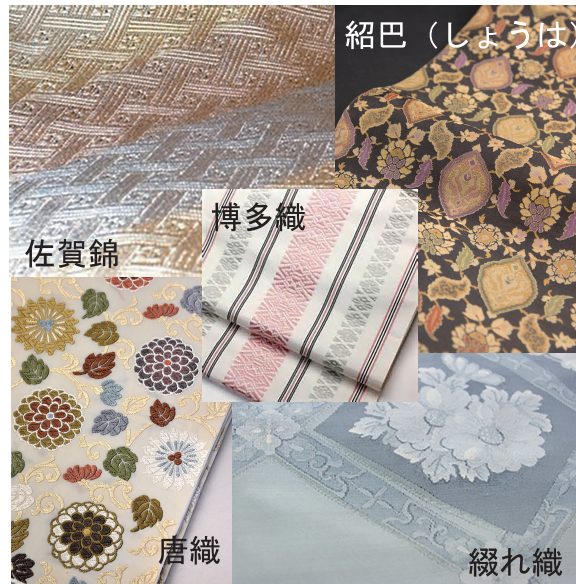
模様を織り出す方法としては最も古く、世界各地で見られます。経系が見えないように打ち込みが強く、緯系で柄を構成しています。

博多織

経系(たていと)が6000~7000本とかなり細かい糸を用いて、太めの緯系を強く打ち込みます。張りのある硬い地風が特徴。

紹巴(しょうは)

二重組織になっており、2色の緯系で地の部分と模様の部分を表現します。寄りをかけた糸を使うため織上がり柔らかくしなやかです。



歌舞伎のススメ

~二つの忠臣蔵~

12月といえば外すことのできない演目が『忠臣蔵』。

『忠臣蔵』は言わずと知れた赤穂藩主浅野内匠頭(あさのたくみのかみ)の仇討ちを赤穂藩家老大石内蔵助(おおいしくらのすけ)ひきいる四七士がとげるといふ話で、その仇討ちの相手が吉良家の殿様吉良上野介(きらこうずけのすけ)ということになります。歌舞伎で上演される忠臣蔵には大きく分けて2つあります。

ひとつは、『仮名手本忠臣蔵(かなでほんちゅうしんぐら)。そしてもう一つは『元禄忠臣蔵(げんろくちゅうしんぐら)』。

仮名手本忠臣蔵は、この事件が起こった1702年から三十数年後の1748年に初演されています。

しかしながら、幕府批判にもなりかねない演目であるため、時代設定を太平記の時代にして、登場人物の名もかえて上演されています。

一方『元禄忠臣蔵』は新歌舞伎と呼ばれる比較的新しい歌舞伎で、昭和9年に第10編の『大石最後の日』が初演され、その人気に後押しされ、そのあとにそれ以前の第1編~9編がつくられたそうです。皆さんもなじみの深い吉良上野介が大石内蔵助率いる四七士に仇討ちされるいわゆる『忠臣蔵』です。皆さんはどちらの『忠臣蔵』お好みですか？



かわちやの

着付教室 12回

1回1000円

かわちやの着付け教室ではそれぞれの目的やスケジュールにあわせたカリキュラムを組んでいきます。

お気軽にご相談ください。

お問い合わせは

TEL 0563-35-0039 大橋幸子まで



竹次郎~ TAKEJIRO CAFE ~ コラム



11月から和室の方はホットカーペットをいれました。一気に冷えてきましたもね。カフェ開催期間以外は子供たちのくつろぎスペースになっています。ここで寝転んでテレビ見れたら最高ですね。特等席です。

新コーナー

今月のコーディネート



和柄を取り入れながらもスタイリッシュでスマートなコートに、ドレープのあるハイネックのセーターで首元に少しだけ柔らかさとさし色としてポイントを持っています。

久留米緋コート 64,800円 パンツ 6,980円
ハイネックセーター 4,860円

草木染講習会

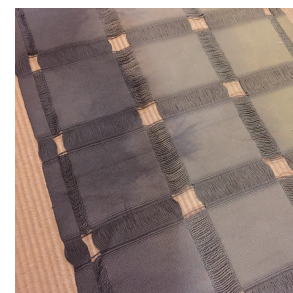
日時 1月17日(水)

午前の部 9:30~午後の部 13:00~

会費 1,000円(1回につき)+材料費

用意するもの: 厚手のゴム手袋、エプロン

タペストリーを作ろう!
(1月、2月の2回コース)



穴の開いた生地を、2色で染めて、そのあと型で染めて(2月)個性的なタペストリーを作ろう!

イベント案内

ギャラリーカフェ

竹次郎 TAKEJIRO CAFE

12月14日(木)~18日(月)

年末大処分市を開催します。